

手足口病に注意！

☑どんな病気？

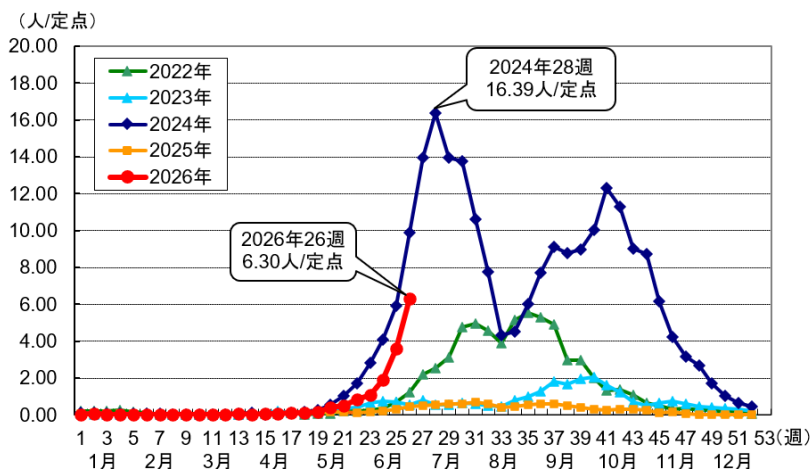
- ・手足口病は、エンテロウイルス属のウイルスによって引き起こされる感染症です。
- ・5歳以下の乳幼児を中心に夏に流行します。
- ・主な症状は、口の中、手のひら、足の裏などにできる2～3mmの水ほう性の発しんで、3～7日程度で消えます。発熱、食欲不振、のどの痛みなどの症状がみられることもあります。
- ・順調に回復する可能性が高い病気ですが、まれに髄膜炎や脳炎を起こすこともあります。
- ・特別な治療法は無く、対症療法が中心になります。

☑どうやってうつるの？

- ・ウイルスが含まれた咳やくしゃみを吸い込んだり、手についたウイルスが口に入ったりすることで感染します。
- ・症状がおさまった後も、患者の便の中にはウイルスが含まれます（2～4週間）ので、トイレ使用時やオムツ交換の際には注意が必要です。

☑どのくらい多いの？

- ・今シーズンは6月上旬ごろより全国的に増加傾向となり、東京都でも6月上旬ごろから報告数が増加し始めました。
- ・東京都内の小児科定点医療機関からの患者報告数が、第26週（6月22日から28日）に東京都の警報基準を超えたため、注意が必要です。



☑どうやって防ぐの？

- ・アルコール消毒は効きにくいので、**流水と石けんでのこまめな手洗い**が有効です。
- ・トイレの後やオムツ交換の後、食事の前には手洗いを心掛け、**自分専用のタオル**で手を拭きましょう。
- ・咳やくしゃみをする時には口と鼻をティッシュ等でおおう等、**咳エチケット**を心がけましょう。
- ・ワクチンはありません。

お問い合わせは
お近くの保健所へ

